

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2017」候補となる実施団体の選定に関する企画競争に準じた手続の実施
(SAARC諸国:招へい、フォローアップ事業)(採点表)

(企画書No.)

採点者: 課 氏名 ()

審査項目	詳細	とても優れている	概ね良好	問題なし	一部要修正	大幅修正	不可	点数
事業の企画妥当性(配点55点)		15点	12点	9点	6点	3点	0点	
(1) 全体日程案の妥当性	(招へい1) ・我が国の政治、社会、歴史及び外交政策に関する理解促進を図るとともに、両国の繋がりが、課題に対する知見を深める内容、訪問先となっているか。 ・様々なテーマ・分野での実施が可能であり、関係者等との交流や意見交換の機会が十分に確保されているか。 ・日本人との交流や日本の正しい姿・魅力を体験し、我が国に対する持続的な関心を増進させるバランスの良い内容となっているか。							
	(招へい2) ・滞在中又は帰国後、被招へい者による日本の外交姿勢や魅力等についての情報発信を行う機会が十分に確保されているか。 ・同じテーマのプログラムであっても、視察先等がマンネリ化しないバリエーション豊富な内容となるよう工夫がなされているか。 ・全体日程案は、観光旅行ではないプログラム構成となっているか。							
	(広報・フォローアップ) ・国内外での本事業のプレスリリースの確実な実施、また、本事業のメディア報道、参加者による対外発信の件数及び内容の収集を行える計画となっているか。 ・適切な参加者の名簿管理・情報更新、アンケート調査の実施、日本関連行事及び日本の情報(留学・就職等)の定期的な配信ができる体制となっているか。 ・参加者の帰国後の活動(アクション・プラン)のフォロー、同窓組織(アルムナイ)等の情報収集及び支援ができる体制となっているか。							
		10点	8点	6点	4点	2点	0点	
(2) 全体事業計画の妥当性	・対外発信力のある将来有望な人材の選定を行う工夫・計画はなされているか。 ・事業計画は、29年度以内に無理のない実現可能で効率的な作業スケジュールが組まれているか。 ・全体計画は対日理解を促進し、国際社会における対日イメージの向上や日本への持続的な関心の増進に寄与するプログラム内容となっており、ひいては外交基盤の拡充に繋がるものとなっているか。 ・本事業の成果を定量的・定性的に測定・検証するための材料を収集し、外務省へ随時報告ができる計画となっているか。 ・プログラム毎の事業評価・報告は、適切なタイミングで外務省へ連絡される体制が確保されているか。							
1の合計点数								
円滑な運営(配点45点)		15点	12点	9点	6点	3点	0点	
(2) 事業実施の適格性・柔軟性	(1) 組織の運営・実施体制 ・プログラムの事前・事後の業務の期間を含め、人員が他事業に携わり、連絡や本業務が滞らないために、事業の実施に必要な人員体制は確保されているか。 ・外務省、拠出先国際機関、参加者、関係者と速やかかつ円滑に、日本語及び英語での連絡・調整が行える体制となっているか。 ・本事業の資金管理が適切であり、年度内の事業計画に変更が生じる場合には、速やかに外務省へ報告する体制となっているか。							
	(2) 事業実施の適格性・柔軟性 ・プログラムの成果を念頭に、幅広い対象者への対応(宿舎・食事内容の配慮等含む)、幅広いテーマへの的確で柔軟な対応を行い、総合的に業務を遂行することができるか。 ・専門性、英語力または多言語を含めた企画の履行、資料作成の能力が十分であるか。 ・本事業を正確に理解し、説明書の記載内容と相違・不備のない企画書を提出しているか。 ・過去の類似事業実績を踏まえ、本事業で想定しうる課題に柔軟に対応できるものであるか。							
	(3) 危機管理能力 ・不測の事態が発生した際、緊急連絡体制は確保されているか。 ・不測の事態が生じた際、訪問先・プログラムの変更等、的確な対応を行う体制は確保されているか。 ・事前に、被害を最小限にするための取り組みがなされているか。							
2の合計点数								
合 計								

☆各評価項目につき該当する評価に✓をつけ、各項目の点数を合計して総計を出すこと。
☆評価は合計6名、各100点満点で行い、合計基準点を400点の60%である240点とする。
合計基準点に達し、且つ、第1位の者と僅差(第1位の得点の5%以内)の者がある場合には、見積額の最も低い者を第1候補として推薦する。